

今月は語彙力の身につけ方について説明します。

言葉を覚えるには、「そのような言葉がある」と認識することが必要です。「そのような言葉がある」という認識がなければ、いつまでたっても「その言葉」を身につけることはできません。まずは今まで自分が知らなかった言葉について、「その言葉」の存在を知ること。これが言葉を覚えるための最初のステップです。

では、自分の知らない言葉を認識するためには、どうすればいいのでしょうか。やみくもに辞書を読んで覚えようとするのは、効率的ではありません。やはり、国語のテキストで読んだ文章の中に出てきた自分の知らない言葉を覚えることが、オーソドックスではありますが、最良の方法です。

知らない言葉が出てきたときに、何らかのアクションを起こすことが大切です。せっかく知らない言葉に出会っても、ここでアクションを起こさなければ、その言葉に出会ったという記憶が残らないため、次にその言葉に出会っても、初めて見たのと変わらないのです。言葉を覚えるには、まず言葉というコップを手に入れなければなりません。ただ、初めはそのコップの中は空っぽです。ノートに自分の知らなかった言葉を書き、辞書で調べて、その意味を書き写すようにします。このとき意味を写すだけでなく、例文もノートに書いておくのがポイントです。辞書に載っている例文でもいいですが、国語のテキストの文章を写しておいた方が、あとでノートを見返したとき、「ああそう言えば、この言葉はあのテキストの中で出てきたな」と思い出すことができるので、記憶として定着しやすくなります。このような作業を通して、言葉のコップの中に少し水がたまります。

また、ノートに書き写す作業をしていると、別の文章でその言葉が使われているのを見かけたときに、「そういえば、この言葉は以前に見たことがあるな」と思い出せるようになっているはずです。すぐに意味が出てこなくても構いません。もう一度その言葉を辞書で調べ、「ああそうだ、こんな意味だった」と確認しましょう。言葉のコップにさらに水がたまります。このようなことを繰り返していくうちに、どんどんコップに水が満たされていきます。そしてコップに水が溜まりきったとき、その言葉を完全に使いこなせるようになっているのです。

言葉のストックをするときは、専用ノート用意しましょう。見直すときに便利ですし、「こんなに言葉を調べたんだ」という達成感にもつながり、モチベーションをアップさせる効果も期待できます。

この方法が語彙力を増やすための王道ですが、当然時間のかかる勉強法です。ですから、この方法と並行して行くと効果の上がる、短期間で語彙力を増強する方法も紹介したいと思います。

それは漢字の学習を進めていくことです。漢字は学年配当が決められており、小学校では、その学年の配当漢字を1年間かけて学習していきます。しかし、4年生が読む文章だからと言って、3年生までに習った漢字だけで書かれている文章を読むわけではありません。もちろん、まだ学習していない漢字には読み方のルビがふってありますが、5年生や6年生で習う漢字、さらには中学生で習う漢字も文章の中では使われています。したがって、漢字については、学年を超えてどんどん覚えていった方が、文章読解には有利だと言えます。

漢字を学習するときには、字形を正確に覚えることと、読み方を覚えることが基本になりますが、その漢字自体の意味を知ることが重要です。漢字辞典で漢字を調べ、その漢字の意味をノートに写します。そして、その意味で使われている熟語を書き出します。

たとえば、「服」という漢字には、「着物」という意味があることはすぐに思いつくでしょうが、「従う」という意味や、「飲む、食べる」という意味もあります。ノートには「着物」の意として、「衣服」「服装」と書きこみます。次に「従う」の意として、「服従」「服役」と書きます。そして「飲む、食べる」の意として、「服用」と書いておくわけです。

さらに、文章の中で知らない二字熟語に出会ったときは、その熟語の意味を調べるとともに、その熟語を構成している漢字の一文字一文字の意味を考えるようにします。そうすると、漢字そのものの持つ意味と、その熟語の意味がつながりを持って理解できるようになるため、スムーズにその熟語を覚えられますようになります。この作業を続けていくと、知らない熟語を見たときに、その意味を推測できるようになります。

このように、知らなかった言葉を覚えることと、漢字の学習をすることで飛躍的に語彙力が増します。語彙力が増すと、読解力もぐんぐん伸ばすことができます。地道な努力を続けていきましょう。

最後に、各回のポイントをあげておきます。

第1回

灘中の入試問題を演習します。70分で入試問題を解いてから、Web動画を見るようにしてください。灘中入試問題を解くときは、大問1、大問2を約20分、大問3を約15分で解いて、残りの時間で答案の見直しをするようにしてください。

第2回

甲陽学院中入試問題を演習します。55分で入試問題を解いてから、Web動画を見るようにしてください。甲陽学院中入試問題を解くときは、大問1、2とも約25分で解いて、残りの時間で答案の見直しをするようにしてください。

第3回

指示語をテーマとした回です。指示語の指示内容を正しく読み取る力は、入試問題を解く上で最も大切なスキルになります。指示語の修飾先を見て、指している内容の手がかりを得てから、指示語の直前部分を見るようにしてください。

第4回

具体化説明をテーマとした回です。具体化の説明は、傍線中のどの部分の説明が求められているのかを意識してください。説明が求められている部分の言い換えや詳しい説明が書かれているところをさがします。その際、説明を要する部分の言葉の意味やニュアンスを考えるようにするのがポイントです。

2月から6年生前期の授業が始まります。6灘WEBにおいては春休みを除いて、7月までで中学受験に必要な単元の発展的なものも含めた基本をほぼすべて扱います。

テキストは、算数強化ツール(の中の「応用」部分の前半)と、灘特訓テキスト前期を使用し、それぞれ独立した動画があり、いずれも特に重要な問題を中心に一部の問題を扱っています。

いずれも学習法は共通しており、先に動画を一通り見て、理解した上で、もう一度問題を解き直す…ということを繰り返していく方法と、動画で扱っている問題を確認して(動画においては、必ず問題を読み上げますので、その段階まで見て一旦動画を停めるというのもいいと思います)、一旦自力で問題に挑戦し、その後、動画を見た上で、ご自分がほぼ理解できていたと思われたら次の問題に進み、何らかの間違いがあったり、正解したものの、新しい解法や知識などが展開されたりした場合は、解き直しをする(新しい解法で解いてみる)というステップを入れた上で、次の問題に進むという方法があります。

この、解き直す…という段階を経ることにより、実力が飛躍的に向上していきます。

理想としては、間違ったり、新しい発見があったりした問題については、少し間を置いて(例えば、1週間、1ヶ月など)再度解き直しをするとより完璧になります。

あと、動画がない問題についても、余裕に合わせて取り組んでみてください。この場合は、付属の解答解説を参考に、間違ったところについては解き直しをすることをお奨めします。

算数強化ツール

◆第1回 (テキスト表記は19回…括弧内は以下同) 整数の性質1

整数の性質に関する色々な問題を扱います。上位校では頻出の単元になりますので、しっかり取り組みましょう。学習対象問題は1～16です。17～27は余裕があったら取り組んでください。

◆第2回 (20回) 整数の性質2

2回に引き続き、整数の性質に関する問題を扱いますが、後半は、N進法の問題が多くなります。学習対象問題は1～16です。17～25は余裕があったら取り組んでください。

◆第3回 (21回) 規則性と整数の性質

1回から3回までの内容の融合問題が多くなります。学習対象問題は1～13です。14～24は余裕があったら取り組んでください。

◆第4回 (テキスト表記は22回…括弧内は以下同 規則性)

規則性に関する色々な問題に取り組めます。一概には言えませんが、規則性においては、小さい例で正しいかどうか確かめる…ということが重要になることが多いと思います。学習対象問題は1~13です。14~23は余裕があったら取り組んでください。

算数強化ツールに関しては、動画は「応用」の前半の部分を扱いますが、少し引っかかるところが多いと感じた場合は、「基礎」や「共通」の部分も使って、練習を積むことをお奨めします。

灘特進テキスト前期

◆第1回 数論Ⅰ

数の性質と規則性の問題が扱われていますが、場合の数への応用(12~16)や、置換の問題(17)なども入っています。

◆第2回 数論Ⅱ

1回よりは、数の性質に関する問題が多くなっており、日暦算やN進法の問題も入っています。

◆第3回 立体図形

高さの平均を利用する問題もありますが、主となるのは立体の切断です。この回で、立体切断の基本をしっかりとマスターしましょう。

◆第4回 場合の数

場合の数と言っても、単純な書き上げだけの問題ではなく、色々な高度な考え方につながるものを中心に扱っています。